

# 業務連絡

2021年10月21日  
JR東海労新幹線関西地本  
編集 業務部 No. 9

2021年10月21日、新大阪日之出会議室において「申」第7号について会社は団体交渉の開催を拒否し、会社側幹事から口頭による回答がありました。

## 「新幹線ホームの車いす用スロープの不具合解消」に関する申し入れ

8月9日、新大阪駅において車いすのお客様が90Aに乗車する際に、スロープとホームの接する部分の段差による衝撃で膝の上に置かれていたお荷物が落下するといった事態が発生した。

現在使用している新型スロープは2020年6月に配備されたが、スロープとホームの接する部分に段差があり、乗車時に車いすの前輪が段差に引っかかり衝撃が発生する。また、車いすを引っかかった状態で強く押すと前のめりに転倒する恐れがあり、車いすのお客様の安全上において問題がある。

さらに、新型スロープの不具合に対して、車いす担当者の対応に任せているだけで、新型スロープの不具合解消を行っていないことも問題である。

今回の事態はまさしく危惧していたことが起こったことになる。

新幹線関西地本は関西支社に対して、新型スロープ不具合解消にむけて「申」第6号（新幹線ホームの新型車いす用スロープの不具合改善に関する申し入れ、2020年8月11日）と「申」第17号（「申」第6号の回答に対する申し入れ、2020年10月30日）を申し入れている。

会社は「現在使用している新型渡り板に安全上問題ない」と結論付けて、段差の改良についても検討項目に上げているが変更する予定はないとしており、新型スロープの不具合解消には至っていない。

よって、下記のように申し入れるので早急に団体交渉の場を設定すること。

## 記

1. 8月9日に発生した事態について、関西支社としての見解を明らかにすること。また、新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）に対する見解も明らかにすること。

### 【会社回答】

当該事象は、係員が、まごころサービスブックに記載されているように、前輪を上げる対応を行わず、強引に車イスを押し込んだことに起因するものと聞いている。尚、現行のスロープに安全上の問題はない。

2. 現時点における検討項目に上げている新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）解消に向けた状況を明らかにすること。

**【会社回答】**

現行のスロープは、車イスの大型化・重量化に対応するために必要な補強措置を施した結果として厚みが増したものであり、不具合であるとは考えていないが、耐久性の維持とスムーズな乗降の両立を前提に、ホーム側端部の改良について検討を進めてきたところであり、今後、近い時期にホーム側端部の具材を変換する形で改良を実施する予定である。

3. 早急に新型スロープの不具合（スロープとホームの接する部分の段差）を解消すること。

**【会社回答】**

2 番の回答と同じ。

《若干のやり取り》

**・新型スロープ不具合（段差が生じる）解消が、問題発覚から約 1 年半近く放置したのは、安全上問題だ！**

（組合）2020 年 6 月に配備、直ぐに不備あり問題ありとして 8 月に申し入れして、約 1 年半放置したまま、危険は予知できていた。そして今年 8 月 9 日に起きたのぞみ 90 号の事態（お客様の荷物が膝から落下）は、起こるべきして起きた。安全に対して取りかかる時期が遅すぎだ。

（会社）当時、主張されたことに対して会社としては、安全上問題ない。新型スロープに問題ないと回答した。

**・スロープの取り扱いがまごころサービスブックに記載されていない！**

**・車イス担当係員の責任にするのは問題だ！**

**・スロープで段差が生じること自体、欠陥だ！**

※（組合）{まごころサービスブック持参して} ここのページのどこに記載されているか尋ねる。

（組合）これに記載されているのは、階段の段差であり、スロープの段差の扱いなど記載されていない。ましてやスロープ自体に段差があってはならないもの、滑らかに上がるのがスロープ本来、段差があるようなスロープが問題であり、まごころサービスブックには記載されていない。

(会社) 今回、取り扱われたのは関西サービックさんで、どういった指導されたかはわからない。まごころサービスブックに基づいてやるよう指導しているという話は聞いた。

(組合) 取り扱いは、係員に周知されていたのか？

(会社) 具体的にどういった周知をしていたかは聞いていないが、まごころサービスブックに記載されている対応をしなかったことに起因している。

(組合) 係員のせいだったということか？回答に係員が強引に車イスを押し込んだと回答している。

(会社) 係員が悪いということを我々の立場では申し上げられないが、どういう周知をしたかは聞いていないが、まごころサービスブックに記載されているよう行わなかったことに起因する。あくまでもそこに原因がある。

### **・問題ないと言うのに改良するのは、問題があった証しだ！**

(組合) 今回、改良すると言ったが、問題ないと言っているのになぜ、改良するのか？

(会社) 問題があるから改良するのではなく、耐久性、大型化している中で、それをより良くするよう改良させる。より良いサービスを求めるために。

(組合) それが1年半かかったということか？

(会社) このタイミングになって目途が立ってきた。

(組合) 現場の当事者の意見を聞かない、机上の空論で発想するからこういう結果になる。

(会社) より良い物にすべきと言う話なら我々としてより良い物にするし、スムーズな乗降にした方が良いと考える。

(組合) 問題を認めつつも改良していくということか？

(会社) 問題だと思っていない、安全上問題ないというのは一貫して変わっていない。

(組合) 改良の時期はいつからか？

(会社) これは今後近い時期にしか申し上げられない。

(組合) 具体的にどの様に改良するかイメージがわからない。

(会社) ホーム端の部分と具材を換えることだ。より良い物にするため追及していく。

(組合) 追及してもらった方がいいが、また問題点あったら出すのでより良い物にしていかななくてはならない。

(会社) より良い物にして行くと言うのは、おっしゃる通りだが、ただ安全上に問題があるかと言えば、会社の見解には問題はない。

(組合) 組合は問題がある。ここは対立だ。

(会社) 見解の違いだ。

以上

・今回、**新型スロープ不具合の改良は、会社が、能動的に改良するのではない!**

・**新型スロープに段差が生じる不具合は、2020年8月に私たちが会社に申し入れた事が改良に繋がったことは明らかだ!!**

・**なぜなら、会社は2020年、組合の申入れ当時から一貫して安全上問題はないと言い続けてきたことに裏付けられる!!**

**私たちの粘り強い取り組みの成果が、不具合改良に繋がりました!!**